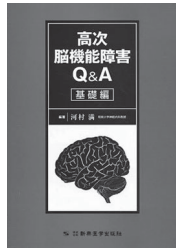


書評

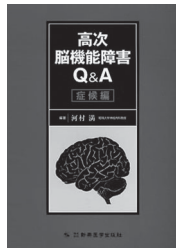
[評者]
小林祥泰
島根大学長



高次脳機能障害 Q&A 基礎編

河村 満 編著

B5判 頁250 2011年
定価 4,830 円(本体 4,600 円+税 5%)
[ISBN978-4-88002-722-7] 新興医学出版社



高次脳機能障害 Q&A 症候編

河村 満 編著

B5判 頁224 2011年
定価 4,410 円(本体 4,200 円+税 5%)
[ISBN978-4-88002-723-4] 新興医学出版社

『高次脳機能障害 Q&A』という一風変わった本が新興医学出版社から出版された。

何が変わっているかという点、高次脳機能障害というきわめて難しい専門分野の解説書としてここまで初心者から専門家までの興味をかき立てる本はなかったからである。Q&A 形式の本は一般に入門者用で実践的な内容をわかりやすく解説するのが普通であるが、本書は最初にサマリーのような「知っておきたい基本知識」、次いで「少し詳しく」、最後に「じっくり学ぶ」という構成で、初めて聞いた言葉でも思わず深く知りたくなってしまう仕組みになっている。

編者の河村満先生は大変有名な「神経症候学」の著者の平山恵造先生のお弟子さんで、CT や MRI と解剖学に脳機能をマッピングしたわかりやすい教科書を平山先生とともに日本で初めて出版しておられ、いまも画像と高次脳機能を結びつけるバイブル的存在となっている。臨床研究者として患者さんから学ぶ姿勢を崩さず、その症候と発現機序を追求し続けてきた編者は、神経症候学、特に高次脳機能に関する分野では第一人者である。私も神経心理学の草分けの頃からいろいろな学会で一緒に議論してきた仲間であるが、この本は今まで彼が作ってきた専門書の高度なエッセンスを神経心理学の専門家以外にも幅広く知ってもらいた

いという気持ちを込めてわかりやすくまとめたものと思っている。

基礎編では高次脳機能障害の定義から研究方法、多彩な病気における高次脳機能障害の病態、発現機序も含めた解説、検査や診断では機能的 MRI の理論や特殊な脳波検査から評価法までを含め、トピックスでは社会的な問題点や近未来的ブレインマシンインターフェイスなどまで取り上げ幅広い興味に対応している。忙しくても関心のある部分だけを簡単につまみ食いの読めるというのも本書の特徴である。

症候編でも「遂行機能障害と作業記憶障害との関連を教えてください」というように単に遂行機能障害の一般的な用語の説明ではなく、密接に関連する脳機能障害をリンクして解説しているのは素晴らしい。高次脳機能は連合野の機能といわれるようにネットワーク機能が重要である。遂行機能障害は前頭前野障害の代表的な症状であるが、なかでも作業記憶が重要であること、また遂行をドライブするアパシーの重要性も別項で取り上げている。単なる症候群の解説集ではなく、脳のネットワークの中で考え、それをこれだけわかりやすく説明した本はほかにはない。

高次脳機能の初心者から研究者まで手軽に読んでほしい本である。